

## 会 議 結 果

会議名	平成30年度 第4回西尾市地域公共交通活性化協議会
日時	平成31年2月15日(金) 午後2時15分～3時45分
場所	西尾市役所 2階 22会議室
出席者	西尾市地域公共交通活性化協議会委員13名 事務局5名 (欠席:松尾副会長、岡田武宏委員、鈴木英治委員、古田靖雄委員、前田晋志委員、彦坂光成委員)
傍聴者	1名
議 事	<p><u>1 開会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料確認</li> <li>・石原会長あいさつ</li> </ul> <p><u>2 議題</u></p> <p><u>(1) 六万石くるりんバス「福地駅」停留所の移設について(協議事項)</u></p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1により説明。</li> </ul> <p>○中村委員(西尾市障害者福祉団体連合会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福地駅は鉄道利用者がかなり伸びている駅である。移設によって駅から遠くなり高齢者や障害者にとっては大変になり心配だが、利用者が少ないということで影響は無いのかなと思う。今後利用が増えてくれば、また見直しを考えてもらいたい。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回については駅前道路の状況上やむを得ず移設させてもらいたい。鉄道との接続という点では、駅前に設置してある今でも、福地駅よりは西尾駅でのダイヤ接続を重視しているため、実際には終点の西尾駅までバスで行き鉄道に乗り継ぐ方のほうが多い。今後利用状況・道路状況が変われば改めて見直したい。</li> </ul> <p>○杉本委員(中部運輸局愛知運輸支局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・路線延長の手続きになるため、正式な申請の前に早めに輸送担当に相談してもらいたい。また、くるりんバスは均一運賃のため変更はないが、バス停の変更は運賃に関わるため、その点も含めた承認としてほしい。</li> </ul> <p>○小林委員(愛知県バス協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現地を見ていないのでわからないが、細い道を通らずに駅前スペースで転回できないのか。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・駅前スペースも広くはなく構造上転回は難しい。道路改良等あれば改めて駅前設置を考える。</li> </ul> <p>○石原会長</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の孫も福地駅を利用していたが、バスが通るのは大変厳しい道路状況である。安全面でも移設したほうがいいのではないか。</li> </ul> <p>○清水委員(西尾市代々表町内会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでも細い道を通れるワゴン車の提案をしたが、現在のくるりんバスでは車両の大きさの基準があるか。また、移設先では乗降の安全確保ができるのか。</li> </ul> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・くるりんバスについては毎年利用者が増加しており積み残しも見られるが、一方で利用の少ない便や区間もあるため、再編の中でワゴン車も含め状況に合わせた車両を検討したい。移設先については、現在でも名鉄東部交通バスのバス停があるが乗降に問題無いと確認している。</li> </ul>

- 田中委員（西尾市観光協会）
  - ・停留所が隣接することで乗り間違いの可能性もあるが、ダイヤの重なりはあるのか。

- 事務局
  - ・ダイヤの重なりはほとんどなく問題無いと考えている。

◎議題（１）について全会一致で承認。

#### （２）ふれんどバス「平坂港前」停留所の移設及びダイヤ改正について（報告事項）

- 事務局
  - ・資料２により説明。
- 杉本委員（中部運輸局愛知運輸支局）
  - ・利用者から運輸局へ申告があり確認したところ、交差点を大きく回り込んで乗降スペースへ入る点も含めて安全上問題があった。ダイヤ改正による休憩時間確保も含め、引き続き事業者と連携し安全確保に努めてもらいたい。

#### （３）バス交通再編に向けたアンケート結果の報告について（報告事項）

- 事務局
  - ・調査業務委託先のランドブレイン株式会社から資料３－１～３－４により説明。
- 颯田委員（西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団）
  - ・くるりんバスの利用者一人あたりの市負担額が３７８円とのことだが、近隣市ではどうか。
- 事務局
  - ・近隣市の利用者一人あたりの負担額は手元に無く正確な比較はできないが、バスに支出している金額全体を比べると、刈谷市や安城市などの近隣市より西尾市は少額である。
- 清水委員（西尾市代々表町内会長）
  - ・資料３－１の８Ｐでバスの重要度があるが、寺津地区が高くなっている理由がわかるか。また、くるりんバス３路線の中で西廻り線だけ市民病院に直接アクセスしていないが、そういった要望はあるのか。
- 事務局
  - ・寺津地区については、名鉄東部交通バスで市街地のほとんどがカバーされており、よくバスを利用する方、日常の生活の中にバスがある方が多いため重要度が高いのではないかと。
  - ・調査資料にもあったが、くるりんバスでは西尾駅での乗継利用が多く、西廻り線については直接市民病院に行きたいという声も現場では聞く。
- 清水委員（西尾市代々表町内会長）
  - ・安城市のあんくるバスは安城更生病院が起点で、くるりんバスは西尾駅が起点となっているため、そのあたりの違いが気になり質問させてもらった。
- 事務局
  - ・安城市でも以前再編を行い、安城更生病院とＪＲ安城駅が起点となっている。直接安城更生病院に乗り入れていない路線もあるが、乗り継ぐことでしっかりアクセスできるようになっている。今後の再編では、市民病院のアクセスや中心市街地の回遊性も検討するため、参考にさせてもらいたい。
- 中村委員（西尾市障害者福祉団体連合会）
  - ・お年寄りにとっては買い物や通院が一番困るが、免許証を返したけど困っているという声をよく聞く。子どもが外に出ていってしまい老老世帯も増えている。市街地の方はバスもタクシーも便利だが、ワゴン車でもいいので小さい車両で郊外の細かい道まで運行し、空白地帯をカバーしてもらいたい。

○事務局

- ・バスの運行ルートが重複している区間もある一方で、運行されていない地域もあるため、空白地帯での中心部へのアクセスや地域内のお出かけの足を確保することは再編の課題である。検討の際には、タクシー車両の活用も含めて地域の状況に合わせた車両も検討したい。

○石原会長

- ・鉄道などでは足の不自由な方への割引があるが、再編での運賃改訂についてそのような要素も考えていくのか。

○事務局

- ・運賃については、同じ区間で運賃が異なることを課題とし再編していく。障害のある方については、現在でも民間路線は半額、くるりんバスは無料となりカバーできていると考えている。

○小林委員（愛知県バス協会）

- ・運行区間の重複などの課題は、くるりんバスの運行開始前からわかっていたと思うが、どのような考えで導入されたのか。

○事務局

- ・くるりんバスについては平成18年に導入され、名鉄東部交通との交渉を行っていたものの、朝夜運行している名鉄東部交通バスに比べ、くるりんバスは日中の高齢者等の買い物・通院の足の確保をコンセプトとしており、利用者の取り合いにはならないという市の言い分を通してしまった。結果的に重複となってしまったため、民間路線・コミバスの区別なくネットワークとして考えて導入する必要があったと考えている。

○杉本委員（中部運輸局愛知運輸支局）

- ・運行時間や運行本数拡大の要望が多いが、現在のバス業界では運転手不足が深刻になっている。休憩時間確保などの安全面も含め、地域がどういう路線が必要なのか、民間路線とコミバスの住み分けをしっかりと考えて再編を進めていってほしい。また、今回の会議で来年の再編のタイムスケジュールを示してほしい。再編したけど乗る人がいないではいけないので、皆さんに利用してもらえよう、地域の意見要望はもちろんだが、地域でバスを守っていくという意識を共有しながら進めていってほしい。

3 その他

- 次回は平成31年3月25日（月）の午前10時15分から開催予定。

4 閉会

以上